

# ドライブレコーダーによる運転診断 結果報告書

作成日 2017年5月1日

所属	株式会社●●	氏名	●● ▲▲	様	診断担当	事故なき太郎
----	--------	----	-------	---	------	--------

診断結果 (A-F 5段階評価)								
運転行動	<b>D</b>	危険感受性	<b>D</b>	交通マナー	<b>C</b>	ドライバー挙動	<b>C</b>	
評価の見方	リスク：低			A	B	C	E	リスク：高

総評：運転技量は十分備わっているため、車体の操作に関して問題は見受けられませんが、車間がやや狭い傾向があります。加えて信号停止中に携帯を操作しています。走行中の確認については後退時の確認が不十分なまま後ろに下がっていたり、見落しがあります。また、一時停止場所の通過方法が徐行となっており、見落としがあります。記を参考に、より安全な運転を行う習慣を身につけるようにしてください。

ドライバーの運転を4項目に分け5段階で評価。自身の課題がどのようなところにあるか、どのようなリスク要因があるかが、理解しやすくなっています。

## 改善項目 ① 走行中の車間距離および運転マナーについて改善すべき点があります。

走行中の車間距離がやや近いです。かつ、走行中や信号停止中に荷物に手を伸ばしたり、携帯や通信機器の画面を注視しています。現状では、よそ見、わき見による**追突事故を起こす可能性**があります。また、片手での運転が常態化しているため、咄嗟の回避が出来ず**起こす可能性**があります。

- 走行中の携帯電話の使用は違反行動であり、重大事故の原因になります。視は行わないようにし、緊急時は**道路の端に寄せ使用する**ようにしましょう。
- 40km/hで走行している場合、たった1秒前方から視線をそらすだけで危険です。

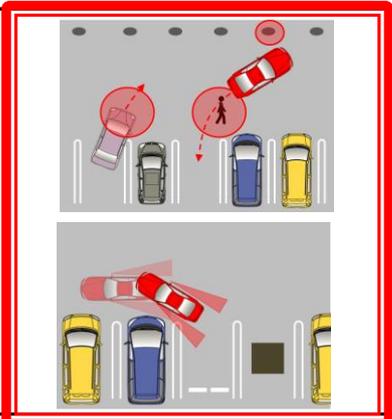
改善項目を"リスク"の高いものから順に最大3つ記載。改善項目には、現状の課題と改善方法を具体的に記載しており、「気をつけなさい」「注意しなさい」といった精神論とは異なります。改善方法を具体的に記すことで、安全意識を高めるとともに、改善目標の構築にもつながります。

## 改善項目 ② 駐車時の確認方法に改善すべき点があります。

後退前および後退中の確認の範囲が狭くなっています。ミラーやバックモニター主体の確認となっていたり、片側一方に確認が集中しているため、**見落しによる事故を起こす可能性が高い**です。ミラーやバックモニターが映している範囲は限定的で、運転者の**死角**だけに気づきやすくなってしまいます。

- 視線を移動してから、再び確認してください。すぐに下がったり、動きが止まると危険です。また、片側一方だけに視線を配るような確認は危険です。

課題点と改善方法は文章だけでなく、イラストがあることでより理解が深まります。口頭や文章では伝わりづらい危険などを、視覚的に訴えることで、危機管理意識を促します。



## 改善項目 ③ 運転中に眠気を催しているシーンが多く見られました。

走行中に頻りに眠気を催しています。かつ低速走行中の車間がやや短いです。**現状では居眠り運転による追突事故や単独事故を起こす可能性**があります。コーヒーやサプリメントなどによる対処は一時しのぎにしかなりません。ただちに追突しないよう車間を空けることはもちろん、下記を参考に根本的な睡眠習慣の改善を行うようにしてください。

- 渋滞や低速走行時に居眠り運転の危険性が高まります。
- まだ、基本的な運転行動のみではなく、重大事故につながりやすい「居眠り運転」の兆候も診断しています。振動や速度の変化で記録する安全装置では知ることのできない、危険行動の診断が可能です。
- また、運転行動だけでなくリスクマネジメントという観点から、睡眠や生活習慣といった点についても、アドバイスを行います。



避ける  
を選ぶ